

広島県中学校英語  
「話すこと」に関する調査  
報告書

令和6年2月  
広島県教育委員会  
義務教育指導課

## 目 次

<b>1 調査概要</b> .....	<b>2</b>
(1) 調査の目的 .....	2
(2) 調査対象 .....	2
(3) 調査事項 .....	2
(4) 調査実施期間 .....	2
(5) 実施方法 .....	2
(6) 集計生徒数及び学校数 .....	2
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項 .....	3
<b>2 各問題の分析結果及び課題</b> .....	<b>4</b>
(1) STEP 1 .....	4
設問① .....	5
設問② .....	7
設問③ .....	9
学習指導に当たって .....	11
(2) STEP 2 .....	12
学習指導に当たって .....	17
<b>参考資料</b> .....	<b>18</b>

広島県中学校外国語科の授業づくりのポイント

## 1 調査概要

### (1) 調査の目的

本県中学生の英語「話すこと」に関する習熟状況を把握・分析し、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等、英語教育の改善及び充実に向けた取組の推進を図る。

### (2) 調査対象

- ① 県内の公立学校のうち、原則として以下の学年に在籍する全生徒  
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年
- ② 特別支援学校中学部第3学年のうち、希望する者
- ③ 特別支援学校及び中学校（義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程を含む。）の特別支援学級に在籍している生徒のうち、以下に該当する生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
  - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている生徒
  - イ 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている生徒

### (3) 調査事項

学習指導要領に示されている英語の五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」）のうち、「話すこと [発表]」の領域とする。

### (4) 調査実施期間

令和5年11月6日（月）～令和5年11月17日（金）

※この期間中に、各学校において実施日を定める。

### (5) 実施方法

- ① 実施方式  
一人1台端末を活用し、文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）を用いたオンラインの音声録音方式で実施する。
- ② 使用端末等  
各学校に整備された一人1台端末及びネットワーク環境を使用する。  
令和5年度全国学力・学習状況調査 英語「話すこと」で使用したヘッドセットを使用する。
- ③ 実施場所  
各学校で通常使用している普通教室で調査を実施することを基本とする。
- ④ 所要時間  
一人5分程度（※調査に関する事前説明から調査終了までに、約20分必要。）

### (6) 集計生徒数及び学校数

- ① 集計基準  
調査実施期間（予備日を含む。）に調査を実施し、正常に全ての音声データが登録された結果を集計。  
その集計結果から、平均正答率等を推定。
- ② 集計生徒数及び学校数

	生徒数	学校数
県立中学校	252人	3校
県立特別支援学校※	3人	3校
市町立学校	18,648人	231校
総数	18,903人	237校

※県立特別支援学校は希望した学校

#### (7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、本県中学生の英語「話すこと」に関する習熟状況を把握・分析し、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等、英語教育の改善及び充実に向けた取組の推進を図ることを目的として実施しているが、調査を行った領域が特定の領域のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

また、本調査の結果においては、平均正答率等の数値を示しているが、その数値のみならず、出題の趣旨や解答類型、反応率等、他の情報と合わせて総合的に結果を分析し、評価することが必要である。個々の問題に着目して、学習指導上の課題を把握・分析し、学習指導の改善・充実につなげることが重要である。

## 2 各問題の分析結果及び課題

生徒は、各自の端末の画面に表示された指示に従って解答を行った。


### (1) STEP 1

#### ■ 表示された問題

**【ステップ1】**

あなたは、いつも参加している国際交流会に来ています。  
この会に初めて参加する友達のひろ子（Hiroko）を、今から国際交流会のメンバーの前で紹介します。  
これから、ひろ子（Hiroko）の趣味、特技、将来の夢について、  
1つずつ順番に情報が出てきます。  
その情報をもとに、それぞれ英語で紹介してください。

ページが変わったら、すぐに録音が始まります。  
**それぞれ10秒で話してください。**

  
ひろ子 (Hiroko)

#### ■ 出題の趣旨

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるかどうかをみる。

本問は、生徒の身の回りのことで共通して関心をもっていることなどについて、即興で話す問題である。事前に原稿を書いてそれを暗唱したりするのではなく、既習の知識や技能を生かしてその場で話すことができるかどうかを把握するために出題した。

#### ■ 学習指導要領における領域別目標・内容

領域別目標	「話すこと [発表]」 ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
内容	(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文、文構造及び文法事項 (2) 言語活動及び言語の働きに関する事項 オ 話すこと [発表] (ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。



- 正答率は、12.4%である。  
このうち、正答（解答類型1）は8.6%である。
- 正答率12.4%のうち、準正答率は3.8%である。  
準正答（解答類型2）の具体的な発話としては、次のようなものがある。

She hobby is listening to music.	等	(反応率 2.3%)
She like listening to music.	等	(反応率 1.1%)

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、人称代名詞の格や三人称単数現在形の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、文構造の誤りはなく、聞き手に伝わる英語で話している。

- 解答類型3の反応率は33.8%である。  
このうち、動詞の活用に誤りがあるものは24.9%であり、このうち不定詞や動名詞における動詞の活用に誤りがあるものは24.5%と、大半を占めている。具体的な発話としては、次のようなものがある。

Her hobby is listen to music.	等	(反応率 24.5%)
-------------------------------	---	-------------

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、趣味について話しているが、動詞の活用に誤りが見られることから、基本的な文法事項を用いて話すことに課題があると考えられる。

また、所有格ではあるものの、誤った人称代名詞を用いている発話も見られた。具体的な発話としては、次のようなものがある。

My hobby is listening to music.	等	(反応率 5.4%)
---------------------------------	---	------------

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、趣味について話しているが、人称代名詞の誤りが見られることから、コミュニケーションにおける状況に応じた表現ができていない、または人称代名詞を正しく理解していないと考えられる。

- 解答類型4の反応率は36.6%である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

She likes music.	She can listen to music.	
Hiroko listen to music.	She is sing music.	等

このように発話した生徒は、意味内容が異なっており、聞き手に伝えたい内容を正しく伝えることができていないことから、伝えたい内容を踏まえ、正しい語や文法事項等を用いて表現することに課題があると考えられる。

設問②

○ 表示された問題



○ 趣旨

特技に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識を活用することができる技能を身に付けているかどうかをみる。

本設問は、国際交流会に参加しているメンバーに対し、友人の特技について紹介する問題である。特技に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をコミュニケーションの場面において即興で活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために出題した。

○ 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率(%)	正答
			広島県	
STEP 1 ②	1	特技について正しく話しているもの (正答例) ・ She is good at swimming. ・ She can swim well. 等	23.2	◎
	2	特技について話しているが、コミュニケーションに支障をきたさない程度の誤りがあるもの	1.3	○
	3	特技について話しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	20.6	
	4	類型3までとは異なる誤りがあるもの	41.6	
	99	上記以外の解答	1.7	
	0	無解答	11.6	

○ 分析結果と課題

本設問の分析に当たっては、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）に示されている観点別学習状況評価の各観点（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）のうち、「知識・技能」に焦点を当て、与えられた情報について正しい英文で話すことができるかどうかを分析する。



- 正答率は、24.5%である。  
このうち、正答（解答類型1）は23.2%である。

- 正答率24.5%のうち、準正答率は1.3%である。  
準正答（解答類型2）の具体的な発話としては、次のようなものがある。

She is good at the swimming.	等	(反応率 0.6%)
She swim very well.	等	(反応率 0.4%)

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、冠詞や三人称単数現在形の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、文構造の誤りはなく、聞き手に伝わる英語で話している。

- 解答類型3の反応率は20.6%である。  
このうち、必要な動詞・名詞が欠落していたり、余分な動詞・名詞等が加えられたりしているものは12.2%であり、最も多い。また、動詞の活用に誤りがあるものは6.5%である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

She good at swimming.	She can swim is very well.	等	(反応率 12.2%)
She can swimming very well.	She is good at swim.	等	(反応率 6.5%)

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、特技について話しているが、一般動詞の活用や be 動詞の欠落、助動詞に続く動詞の活用に誤りが見られることから、基本的な語や文法事項等を用いて話すことに課題があると考えられる。

- 解答類型4の反応率は41.6%である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

She is swimming.	She can swim.
I can swim.	Hiroko was very swimming well. 等

このように発話した生徒は、設問①と同様、意味内容が異なっており、聞き手に伝えたい内容を正しく伝えることができていないことから、伝えたい内容を踏まえ、正しい語や文法事項等を用いて表現することに課題があると考えられる。

設問③

○ 表示された問題



○ 趣旨

将来の夢に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識を活用することができる技能を身に付けているかどうかをみる。

本設問は、国際交流会に参加しているメンバーに対し、友人の将来の夢について紹介する問題である。将来の夢に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をコミュニケーションの場面において即興で活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために出題した。

○ 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率(%)	正答
			広島県	
STEP 1 ③	1	将来の夢について正しく話しているもの (正答例) ・ She wants to be a teacher. ・ Her dream is to be a teacher. 等	22.6	◎
	2	将来の夢について話しているが、コミュニケーションに支障をきたさない程度の誤りがあるもの	7.6	○
	3	将来の夢について話しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	25.6	
	4	類型3までとは異なる誤りがあるもの	30.9	
	99	上記以外の解答	1.4	
	0	無解答	11.9	

○ 分析結果と課題

本設問の分析に当たっては、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）に示されている観点別学習状況評価の各観点（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）のうち、「知識・技能」に焦点を当て、与えられた情報について正しい英文で話すことができるかどうかを分析する。

- 正答率は、30.2%である。  
このうち、正答（解答類型1）は22.6%である。

- 正答率30.2%のうち、準正答率は7.6%である。  
準正答（解答類型2）の具体的な発話としては、次のようなものがある。

She want to be a teacher.	等	(反応率 6.3%)
She wants to be teacher.	等	(反応率 1.6%)

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、三人称単数現在形や冠詞の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、文構造の誤りはなく、聞き手に伝わる英語で話している。

- 解答類型3の反応率は25.6%である。  
このうち、必要な動詞・名詞が欠落しているものは17.9%であり、最も多い。具体的な発話としては、次のようなものがある。

Her dream is a teacher.	等	(反応率 17.9%)
-------------------------	---	-------------

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、将来の夢に関する語彙についての知識は理解しているが、「夢は学校の先生」等の日本語の語順に影響され、誤った文構造で表現していると考えられる。

また、be動詞と一般動詞の併用や動詞の活用等に誤りがあるものも見られる。具体的な発話としては、次のようなものがある。

She is wants to be a teacher.	等	(反応率 3.5%)
She wants be a teacher.	等	(反応率 1.9%)
She wanting to be a teacher.	等	(反応率 0.3%)

※ここでの反応率は、抽出した解答における割合を示している。

このように発話した生徒は、be動詞と一般動詞の混同等、基本的な文法事項を用いて話すことに課題があると考えられる。

- 解答類型4の反応率は30.9%である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

She will be a teacher.	Hiroko is school teacher.
She dream teacher in school.	She school teacher is dream. 等

このように発話した生徒は、設問①及び②と同様、意味内容が異なっており、聞き手に伝えたい内容を正しく伝えることができていないことから、伝えたい内容を踏まえ、正しい語や文法事項等を用いて表現することに課題があると考えられる。

## ■ 学習指導に当たって

### 関心のある事柄について、即興で話すことができるようにしましょう。

小学校では、「伝えようとする内容を整理した上で」話すのに対して、中学校では、「即興で」話すことができるようになることが求められており、事前に原稿を書いてそれを暗唱したりするのではなく、興味・関心のある事柄について、既習の知識や技能を生かしてその場で話せるようにする必要があります。

即興で話す力は、一度の授業や言語活動で身に付くものではないため、即興で話す活動に継続的に取り組ませることで、即興で話す力を高めていく必要があります。

このような言語活動を行う際には、学習した語句や表現などに意味のある文脈の中で繰り返し触れることができるようにしながら、様々な話題についてその場で英語を話すことに慣れていくことも大切です。

言語活動を通して指導を行う際には、次のようなことに取り組むことが考えられます。

- ・ 身の回りのことで、生徒が共通して関心を持っていることなど、生徒が積極的に話したくなるような話題を設定する。
- ・ 即興で話す言語活動を行うに当たっては、生徒の習熟の程度を考慮し、事前に教師と生徒、又は生徒同士がやり取りを行い、話題に関連した情報や必要となる語彙や表現を共有したり整理したりすることも考えられる。
- ・ 即興で話す際には、多少の誤りやたどたどしさがあるのは当然であるという認識の下に、初めから正確さを求めたり、必要な表現を練習したりしてから言語活動を行うのではなく、まずは生徒が話したい内容をしっかり受け止め、生徒の多様な発話を促す。  
その際、小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語句や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いるよう促す。
- ・ 生徒の発話の正確さを高めるために、言語活動等における生徒の発話に注意深く耳を傾け、活動中の言語使用について具体的にフィードバックする。  
また、生徒自身が誤りに気付いたり、修正したりすることができるようにするため、発話を録音したり、話したことを書いてみたりするなどして、生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与える。

## (2) STEP 2

### ■ 表示された問題

**【ステップ2】**


次の国際交流会では、「私の住んでいる町自慢」というテーマでスピーチ大会が行われ、あなたも出場することになっています。

優勝者には、1週間の海外旅行がプレゼントされます。

スピーチのルールは、自分の町の自慢の場所や食べ物、人物などを1つだけ取り上げ、できるだけわしく話すことです。

**あなたの町の自慢を1つだけ取り上げ、よりよく伝えるように、英語で話してください。**

次のページで1分間、内容を考えた後、30秒で話します。



### ■ 出題の趣旨

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

本問は、国際交流会でのスピーチ大会において、自分の住んでいる町の自慢の場所や食べ物、人物など、紹介したいものを一つだけ取り上げて詳しく話す問題である。

生徒の住む町のことについてあまり知らないと考えられる聞き手に対して、自慢したいものを分かりやすく伝えるためには、聞き手に十分配慮しながら、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えたり、事実と考えを分けて整理したりすることが必要である。本問では、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、聞き手に配慮しながら、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを把握するために出題した。

### ■ 学習指導要領における領域別目標・内容

領域別目標	「話すこと [発表]」 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
内容	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 オ 話すこと [発表] (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

○ 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
		広島県		
STEP 2	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 話題：自慢するものを一つ取り上げて話している。 ② 情報：①について、理由や具体例等を挙げ詳しく話している。 ③ 考え・気持ち：①について、自分の考えや気持ちを話している。 ④ 展開・構成：まとまりよく話している。(内容の一貫性、聞き手に分かりやすい展開や構成等)  ***** (正答例) My hometown is ○○. ○○ is famous for flowers. When you come to ○○, you can see some beautiful flower gardens around ○○ station. The flowers are loved by many people in my hometown. I like the flowers too. Please come to my hometown ○○ and enjoy seeing the beautiful flowers.			
	1	条件①～④を全て満たしているもの	4.7	◎
	2	条件①、②、④を満たしているが、条件③を満たしていないもの	19.4	○
	3	条件①～③を満たしているが、条件④を満たしていないもの	0.0	○
	4	条件①、②は満たしているが、条件③、④を満たしていないもの	0.1	○
	5	条件①、③は満たしているが、②、④を満たしていないもの	5.0	
	6	条件①は満たしているが、②～④を満たしていないもの	46.6	
	7	全ての条件を満たしていないもの	4.9	
	99	上記以外の解答	6.1	
	0	無解答	13.3	

○ 分析結果と課題

本問の分析に当たっては、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）に示されている観点別学習状況評価の各観点（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）のうち、「思考・判断・表現」に焦点を当て、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを分析する。

- ・ 正答率は 24.1% である。  
このうち、正答（解答類型 1）は 4.7% である。

- ・ 解答類型 2 (条件①、②、④を満たしているが、条件③を満たしていないもの) の反応率は 19.4% である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

I live in Geihoku. Geihoku has a company called “Geihoku Dorce”. This company makes many kinds of ice cream. The ice cream is delicious and very popular. Also, it is not far from my house. Actually, I can go there by bicycle.

このように発話した生徒は、話題を一つ取り上げ、理由や具体例等を挙げ詳しく話しており、まとまりのある内容となっているが、話題について自分の考えや気持ちを話していない。

- ・ 解答類型 3 (条件①～③を満たしているが、条件④を満たしていないもの) の反応率は 0.0% である。
- ・ 解答類型 4 (条件①、②は満たしているが、条件③、④を満たしていないもの) の反応率は 0.1% である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

I live in Hiroshima. If you come to Hiroshima, you can eat Momiji manju. And you can see deer. And Momiji manju is many kinds of and very yummy.

このように発話した生徒は、話題を一つ取り上げ、理由や具体例等を挙げ詳しく話しているが、自分の考えや気持ちを添えたり、まとまりのある内容を話したりすることができていない。

- ・ 解答類型 5 (条件①、③は満たしているが、②、④を満たしていないもの) の反応率は 5.0% である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

My town is oysters famous. Oysters are delicious. I like oysters. Let’ s eat oysters.

このように発話した生徒は、話題について自分の考えや気持ちを話しているが、理由や具体例等を挙げ詳しく話しておらず、聞き手に分かりやすい展開や構成となっていない。

- ・ 解答類型 6 (条件①は満たしているが、②～④を満たしていないもの) の反応率は 46.6% である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

There are museum. Many people will go there.

このように発話した生徒は、条件②における情報量が十分ではなく、条件③の自分の考えや気持ちも話されていないことから、十分な発話量とならず、条件④のまとまりのある発話に至らなかったことが考えられる。

- ・ 解答類型 7 (全ての条件を満たしていないもの) の反応率は 4.9% である。具体的な発話としては、次のようなものがある。

I live in Hiroshima. I like Hiroshima. Beautiful city.

このように発話した生徒は、条件①～④のいずれの条件も満たしておらず、問題の趣旨に応じた発話となっていない。

ここからは、それぞれの正答の条件を満たしている生徒が、具体的にどのような発話を行っているかを分析する。

[正答の条件①]

本問では、生徒がスピーチを行うに当たり、正答の条件①にあるように、まずは、自慢するものを一つ取り上げる必要がある。何らかの発話を行った生徒は 86.7%であり、自慢するものを一つ取り上げて話した生徒は 75.7%である。

[正答の条件②]

本問では、問題文にあるように、取り上げた話題について「できるだけ詳しく話す」ことが求められている。

正答の条件②である、「話題について、理由や具体例等を挙げ詳しく話している。」ものは、24.1%である。このうち、話題について情報を加えたり、具体例を挙げたりして詳しく話しているものとしては、次のようなものがある。

I live in Onomichi. Onomichi has many temples. Senkoji is the most famous temple in Onomichi. Senkoji is visited by many people. Foreign people visit there. There are good scenery.

また、なぜその話題を取り上げたのかなど、理由を挙げて話しているものとしては、次のようなものがある。

I recommend Miyajima. It's because there are very beautiful sea and it's famous for world heritage site. I like deer. It's because deer is cute and interesting.

[正答の条件③]

自分の町の自慢についてよりよく伝えるためには、取り上げた話題について自分の考えや気持ちを添えたり、聞き手に呼びかけや問いかけを行ったり、勧誘したりするなど、聞き手を意識した話し方を工夫することが考えられる。

正答の条件③である、「話題について、自分の考えや気持ちを話している。」ものとしては、次のようなものがある。

I will tell you about Momiji manju. Momiji manju is the very famous food in my town. It is very delicious and sweet. I like chocolate momiji manju. It is very good.

また、聞き手を意識し、聞き手に呼びかけや問いかけを行ったり、勧誘したりして話しているものとしては、次のようなものがある。

There is YAMATO museum in my city. YAMATO is battleship name. If you go to YAMATO museum, you can learn history. Let's go to YAMATO museum.



[正答の条件④]

本問のように、スピーチとして表現するためには、羅列的に事実を表現したり、事実と考えを整理することなく思いついた順番に表現したりすることがないように、一つのテーマに沿って内容に一貫性をもたせたり、聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて話したりすることが大切である。

正答の条件④である、「まとまりよく話している。(内容の一貫性、聞き手に分かりやすい展開や構成等)」ものについては、テーマに沿って話を展開し、文と文のつながりや文相互の関連から一貫性があるものや、ナンバリング等により話の順序や時系列を明確にしているものがある。具体的な発話としては、次のようなものがある。

【テーマに沿って話を展開し、一貫性があるもの】

My town is famous for Tawaramikoshi. Tawaramikoshi is the festival which is loved by many people. It is very fantastic and many people can enjoy it. You can enjoy it in winter.

-----

Fukuyama is famous for roses. Fukuyama has one million roses. I think it is the most beautiful. I like rose festival. It is very fun.

【話の順序や時系列を明確にしているもの】

I tell you Miyajima. I have two reasons. First, we can see Itsukushima Shrine. It is cool. And it is on the sea. Second, we can eat Momiji manju. It is delicious and sweet.

一方、正答の条件を満たさないものには、羅列的に事実を話しているものや、同じ内容を繰り返しているもの等がある。

【羅列的に事実を話しているもの】

My town is favorite place Peace Park. My town is favorite food a okonomiyaki. My town is favorite people Ariyoshi.

【同じ内容を繰り返しているもの】

Okonomiyaki. I like okonomiyaki. Okonomiyaki. I know okonomiyaki. Okonomiyaki is good. Good. Good. ....

このように発話した生徒は、伝えたい内容があり、その内容を英語で表現することができるが、話し手として伝えたい順序を考えたり、聞き手を意識してまとまりよく話したりすることに課題があると考えられる。

## ■ 学習指導に当たって

**与えられたテーマについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるようにしましょう。**

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなど、まとまりのある内容を話す際は、羅列的に事実を表現したり、思いついた順番に表現したりするのではなく、聞き手に分かりやすく話すことが重要です。

自分が話したい内容について、短い準備の時間の中で整理して伝えることや、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、話す内容や構成を工夫することが求められます。

言語活動を通して指導を行う際には、次のようなことに取り組むことが考えられます。

- ・ 生徒の身近な暮らしに関わる様々な話題のうち、生徒が積極的に話したくなるような話題で、コミュニケーションの目的や場面、状況等を意識した具体的な課題を設定する。
- ・ ブレインストーミング等で話したい内容を膨らませた後、ペアやグループでその内容を伝え合う活動を行う。活動を通して、相手の話す内容や考え、気持ちなどを知ることにより、自分の伝えたい内容をさらに膨らませたり、より具体的にしたりする。
- ・ 言語活動を繰り返す中で、コミュニケーションの目的や場面、状況等における聞き手を意識させ、自分が聞き手であったら何を聞きたいか、どのような展開や構成であれば分かりやすいか等を考えさせる。その際、聞き手に分かりやすい展開や構成となるよう、スピーチの概要や大筋を箇条書きにしたり、展開を図式化したりするなどして整理する時間を取ったりすることが考えられる。
- ・ 教師は言語活動等における生徒の発話に注意深く耳を傾け、生徒の話している内容について具体的にフィードバックする。  
また、ペアで伝え合う活動を通して、聞き手にとって分かりづらかった表現を確認したり、一度話した内容を構成面から振り返らせたりして、より聞き手に分かりやすい展開や構成になるよう言語活動を繰り返す。
- ・ 生徒の発話の正確さを高めるために、教師は内容の伝達に重点を置きながら、必要に応じて適切な語彙や表現などを助言する。  
また、生徒自身が誤りに気付いたり、修正したりすることができるようにするため、発話を録音したり、話したことを書いてみたりするなどして、生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与える。

## 参考資料

- ・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編 平成 29 年 7 月 文部科学省
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語 文部科学省 国立教育政策研究所
- ・令和 5 年度全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 英語 令和 5 年 5 月 国立教育政策研究所
- ・令和 5 年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語 令和 5 年 8 月 文部科学省 国立教育政策研究所
- ・平成 31 年度全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 英語 平成 31 年 4 月 国立教育政策研究所
- ・平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語 令和元年 7 月 文部科学省 国立教育政策研究所
- ・平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 令和元年 9 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に  
関する指導資料 中学校英語 令和 3 年 4 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・文部科学省 YouTube チャンネル mextchannel 「外国語教育はこう変わる！」動画

中学校の外国語教育はこう変わる！～前編（授業）～		中学校の外国語教育はこう変わる！～後編（対談）～	
中学校の外国語教育はこう変わる！②～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～		中学校の外国語教育はこう変わる！③～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～	
中学校の外国語教育はこう変わる！④～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～		中学校の外国語教育はこう変わる！⑤「統合的な言語活動の指導の工夫」	
教師の指導力向上に向けた実践例①～領域目標 話すこと [やり取り]		教師の指導力向上に向けた実践例②～領域目標 話すこと [やり取り]	
教師の指導力向上に向けた実践例③～領域目標 話すこと [発表]		「読むこと」と「書くこと」の領域統合の指導例	
新しい言語材料の導入の仕方例		読むことの指導例～読んだ内容を伝えることを目的として読ませる指導例～	
中学校学習指導要領・学習評価の解説 前編		中学校学習指導要領・学習評価の解説 後編	

主に「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導例～やり取りを重視した授業、ALT を活用した実践～		主に「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導例～伝え合う内容を重視した授業、学習集団づくりが大切にされた実践～	
社会的な話題について自分の考えを持ち表現させる指導例		外国語教育における小中連携 必要性とポイント	
【中学校外国語】「話すこと」の指導のポイント ～令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて～			



# Learning by Doing

**単元で身に付けさせたい力を具体的に設定しましょう。**

生徒が「英語を使って何ができるようになるか」をイメージし、単元末に生徒がどのような英語を表現（話す・書く）できればよいのか、理解（聞く・読む）できればよいのかを、実際に英文で書いてみるなど、具体的に設定しましょう。

**生徒が「やってみたい！」と感じる魅力的な言語活動を設定しましょう。**

生徒の興味・関心などを把握し、単元を通して生徒が積極的に取り組みたくなるような言語活動を設定しましょう。その際、生徒が相手や目的に応じて考えたり工夫したりしながらコミュニケーションを行うことができるような言語活動にしましょう。

また、生徒が教科書で扱われている題材に興味・関心をもてるような題材との出会いを工夫し、生徒と題材をつなぎましょう。

**生徒の「英語を使う」時間が充実した授業にしましょう。**

教師の説明は極力簡潔に。授業時間の半分以上は、生徒が聞いたり話したり読んだり書いたりする、英語を使った言語活動を行う時間にしましょう。

生徒が英語を使う時間を十分に確保し、生徒が英語を使いながら身に付けていくという流れを大切にしましょう。

**言語活動を繰り返す中で、生徒の英語の質を高めましょう。**

ペアやグループなどで英語による言語活動を繰り返し、生徒同士の関わり合いの中で学ぶことができるようにしましょう。また、活動後に生徒が自分の使用した英語を振り返ったり、場面に応じた適切な表現方法を考えたりすることで、自ら改善点に気づき、次の言語活動に生かすことができるようにしましょう。

指導の際は、「発話の型を与え、そのとおりに表現させる」、「日本語を与え、それを英訳させる」等の指導から脱却し、指導の重点を内容の伝達に置きながら、活動中の生徒の言語使用について具体的にフィードバックしましょう。

**英語で授業を進めましょう。**

生徒が積極的に英語を使って言語活動に取り組むことができるよう、まず、教師自身がコミュニケーションの手段として英語を使いましょう。挨拶や指示を伝える教室英語を使用するだけでなく、生徒の理解に応じた英語で授業を進め、生徒との英語でのコミュニケーションを楽しみましょう。